

感染症情報 2月12日～18日

府下小児科198療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	903例(堺市	60例)
②溶連菌感染症	334例(堺市	28例)
③RSウイルス感染症	100例(堺市	4例)
④突発性発疹	75例(堺市	3例)
⑤みずぼうそう	42例(堺市	1例)

府下インフルエンザ定点304医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 7951例(堺市 754例)

が報告された。

感染症報告数は前週比3.6%減の1,553件であった。

報告の第1位は感染性胃腸炎で、以下溶連菌感染症、RSウイルス感染症、突発性発疹、みずぼうそうの順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週より4%減、堺市では前週より36%増であった。溶連菌感染症は府下で前週より10%減、堺市で前週24例→今回28例であった。RSウイルス感染症は府下で前週比1%増、堺市で前週2例→今回4例であった。みずぼうそうは府下で前週が33例→今回42例で27%増、堺市では前週が2例→今回は1例であった。

インフルエンザは府下で前週11180例→今回7951例で29%減、堺市では前週994例→今回754例で24%減となった。定点当たりでは前週が36.8で、今回は26.2であった。大阪府下では警報レベル開始基準値の30.0を下回るブロックが多くなった。

麻疹や風疹の報告はなかった。